

NITTO NITTOSEIKO NEWSLETTER

日東精工ニュースレター

京都府綾部市井倉町梅ヶ畑20
日東精工株式会社経営企画室発行

受験生応援ゆるみ止めねじプレゼントキャンペーン 今年度は7000名※を超える方にお届けしました。

2014年から開始をした受験生応援ゆるみ止めねじキャンペーンは回を重ねるごとに認知度が高まり、第5回目となる今年度は7000名を超える方にプレゼントすることができました。既にたくさんの喜びの声をいただいておりますので、その一部をご紹介します。



「大吉」で幸先のいいスタート!

受験生応援ねじは当社のファスナー(工業用ねじ)「ギザタイト」を特別加工したものです。「ゆるみにくい」という大きな特長に加え、アルミ素材で軽量化(軽い=重くシビアに考えずリラックス)、五角形(ごかく=ごうかくに通じる)、金色加工(輝く)を付加し、そのうえで頭部に「祈成就」という文字を刻印しています。毎年、少しずつ新しい工夫を加えていますが、本年度は「ねじくじ」を同封しています。

これは当社人財教育をまとめた『人生の「ねじ」を巻く77の教え』の一部を抜粋し、受験生向けに再加工したもので、「照れを捨てて取り組んでみる」「遠くのゴールを見つめよう」「時間を浪費せず蓄積していこう」といったねじの教えに受験生向けの応援メッセージをつけたものです。

種明かしをすれば、皆さんが前向きに気分よくなれるよう凶や大凶をはずしたくじなのですが、「ねじくじ大吉でした!ありがとうございます!試験日にねじを持って行き、必ず合格します!」(愛荘町立秦荘中学校の学生さんたち)といったようにとても喜んでいただくことができました。

「またお世話になります!」の応募

「息子は中学より親元から遠く離れた地で暮らしています。高校卒業までの6年間の内、一緒に過

ごせる時間は1年もありません。せめて親としてできることはないかと思い、3年前高校受験の際に送っていただき、無事合格しました。今回は大学受験です。今回もよろしく願います」と遠く離れて暮らす家族の絆を当社のねじが“つなぐ”といったエピソードも生まれています。あるいは「4年前に応募しました。今度は今回受験の妹のためにプレゼントしたい」といったやさしい兄さんからの応募もいただきました。

単発で終わらせるのではなくこうしてキャンペーンを続けていると、いろいろな新しいエピソードが生まれ、それが励みになっています。



扶桑社発行『皇室』の当社企業広告をごらんになって受験生ねじキャンペーンにご応募いただいた方もおられます。

ライバルであり良き仲間、 絆を深める受験生応援ねじ

クラスや学校単位でのご応募もたくさんいただいています。狭き門、高みを目指すと、どうしても自分本位、周りを蹴落としてでもというようになりがちです。しかし、このキャンペーンのコンセプトは、皆が最善を尽くし皆がいつしよに幸せになるということです。仲間といつしよでのご応募は大歓迎、心が温かくなりますね。受験ではないけれ

※3月1日以降受付分を除いた数字で今後さらに増える予定です

ど、皆でねじを締めていきたいと、小中高生混合のスポーツチームからの応募もいただいています。

この受験生応援ねじキャンペーンにはご本人からはもちろんですが、たとえば海外で単身赴任のお父さんが娘に送ってほしい（※海外からの応募は受けつけていませんが発送先が国内なら可）というように、娘や息子のためにという親御さんから、あるいは孫のためにと祖父母の方からのご

募も多数ありました。

ご応募いただき寄せられたたくさんの声は、まさに弊社社員の喜びであり、誇りにも通じます。そして、このキャンペーンが多くの方々に支えられ、育てていただいていることを実感しています。

このキャンペーンも含め、弊社のねじがいろいろな形でより多くの方々に喜んでいただけるような企画を今後も進めてまいります！



高知学園短期大学には50個まとめて送付。「お守りを頂いた方に直接お礼を言うことはできませんが、学生全員感謝の気持ちでいっぱいです」とのコメントをいただきました。



愛知県立半田東高等学校には当社社員が320個を直接お届けしました。「かばんにつけて、受験を乗り切りたいです。お守りかわいい」などの感想をたくさんいただきました。



福知山市立六人部中学校からは3クラスと特別支援学級の代表者4名が受け取りに來られ、83個をプレゼント。お礼の言葉や受験に向けての決意を聞くことができました。

★喜びの声は当社ホームページで詳しく掲載しています★

<https://www.nittoseiko.co.jp/>



女性活躍を推進する企業として「えるぼし」三つ星認定。 働き方改革を加速化していきます！

当社は厚生労働省から「えるぼし」を認定され、2月1日京都府庁でその表彰式が行われました。「えるぼし」とは、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）に基づく認定制度です。たとえば、男女別の採用における競争倍率が同程度である、法定時間外労働および法定休日労働時間の合計時間数の平均が月ごとにすべて45時間未満である、管理職に占める女性割合が産業ごとの平均値以上であるなどの基準をクリアした企業が認定されるもので、項目の数に応じて一つ星から三つ星まで3段階に分かれています。当社日東精工が京都府では京都市外に本社をおく企業として、三つ星初認定となりました。

当社の社是「我らの信条」には、くよい

製品をつくり、明るい職場をつくる」というフレーズがあります。最近「ワークライフバランス」「働き方改革」「女性活躍」といった言葉がよく聞かれるようになりましたが、これを一過性のブームとしてとらえるのではなく、今後も従業員が働きやすい環境づくりを心がけていきます。



左は三つ星の「えるぼし」マーク。右は表彰を受ける当社取締役 荒賀誠

創立81周年記念式典を 開催いたしました

2月11日、建国記念の日に、当社日東精工は創立81周年を迎えることができ、本場で記念式典が行われました。当社代表取締役社長材木正己の記念挨拶については、P4の「正己語録」で抜粋してご紹介しております。当日は、社長の挨拶に続き、優良従業員、特別功績賞の表彰などが行われました。

これからも先人が築き上げたものに新たに歴史を積み重ねていくことを喜びとし、感謝の気持ちを忘れずに「お客様満足度120%」を常に目指してまいります。



地盤調査機「ジオカルテ」関連で タイ王国で共同研究調印式

2月18日、タイ王国にて当社制御システム事業部の地盤調査機「ジオカルテ」共同研究に関する覚書の調印式が行われました。日東精工株式会社、タイ日東精工マシナリー（TNM）、ジャパンホームシールド（JHS）、そしてタイ・カセサート大学の4者間で進める産学研究ですが、これは軟弱地盤の多いタイ王国においてジオカルテSDS試験機の普及を目指すもの。ジオカルテは国内では地盤調査機分野としては圧倒的シェアを誇りますが、こういった海外での共同研究をベースにグローバル化を加速させてまいります。



カセサート大学ビーラユス工学部長（左）と当社代表取締役社長材木正己

質量流量計「クリーンフロー」が 防爆エリア使用の認証を取得

当社制御システム事業部の質量流量計「クリーンフロー」は、高機能トランスミッタを搭載し、通常の流量計測、短時間充填、流体の濃度監視などの用途において、高精度に直接質量流量を計測できる流量計です。これまでは日本国内で一般産業用として非危険区域のみで使用できる製品と、海外で使用できる海外防爆認証品（ATEX/IECEX、cFMus）のラインアップを揃えていましたが、このほどより基準の高い国内の防爆エリアでも使用できる防爆認証を取得しました。今後は国内においても、石油、化学などのプラントや工場など可燃性の液体や気体を扱う場所で、「クリーンフロー」が貢献できることとなりました。

今回の国内防爆認証の取得により、お客さまへ安心・安全をお届けするとともに、あらゆる産業のモノづくりを支えています。



本製品には、一体型とリモート型があり、今回、そのすべてにおいて防爆認証を取得しました

日東精工の魅力をアピールする 新書が扶桑社から新発売

日東精工の人財教育をまとめた書籍『人生の「ねじ」を巻く77の教え』（ポプラ社）は発売から5年がたち各方面から続編が求められていました。今般、その声にお応えし内容をより発展させたものを、『絆経営で目指す新しい地方創生～心のねじがキュキュッと締まるビジネスのヒント～』という書名で、扶桑社から発売することになりました。

3月4日の全国発売に先がけ、弊社創立81周年記念日となる2月11日に見本が完成し、お世話になった方々に事前配布させていただきました。



本ニュースレターで連載していた「新・人生のねじを巻く教え」や現在好評連載中の「正己語録」、あるいはニュースレターでご紹介したTOP対談などを再編集したものです。当社は「我らの信条」にもリンク、読み応えのあるものになっています。扶桑社新書850円＋税



誠実、信頼、感謝の心をもって

朝

は希望に起き、昼は努力に生き、夜は感謝とともに眠る》

これは当社日東精工の人財教育に40年以上携わっていただいた経営コンサルタント・蒲田春樹先生が好んで使われていた言葉です。実際、こんなふうに感謝で終えられる一日を、日々積み重ねていければと願います。

感謝といえは、おかげさまで2月11日、建国記念の日に、当社は創立81周年を迎えることができました（P3）参照。80、90、あるいは100という大きな節目ではありませんが、先人の方々が築いてこられた上に、新たにもうひとつ歴史を積み重ねることができたことを、心から感謝いたします。

81周年を迎えた今を、ただお祝いをするのではなく、私よりもより従業員の一人ひとりが、この歴史をキチンと総括することによって、それぞれの立場でその責任を自覚し

ていきたいと考えています。創立記念日は私たちを育てていただいたすべてに感謝し、絆を再確認する日。そして、それに報いていくには日東精工を「世界に誇れるグローバル企業」にしていきたいのだという思いを新たにしています。

当社の歴史は1935（昭和10）年に四方重吉氏が、綾部市で精密機械関連の工場として、四方製作所を創業したことにはじまります。四方製作所は発展的に改組され、「日は東より」という自然界の姿のままに1938（昭和13）年に日東精工株式会社として誕生いたしました。その後、日本の経済発展とともに歩み、業容を拡大しながら成長を遂げ、現在に至ります。顧みますと、創業以来の道程は決して平坦なものではありませんでした。創成期、戦後の混乱期を除いて、昭和25年の朝鮮戦争時、昭和49年のオイルショック時、そして平

成5年のバブル崩壊時と三度の経営存亡の危機を経験しました。幾多の困難に遭遇しながらも、当社が存続することができたのは、当社にかかわるすべての皆様のご支援があったからです。

今から56年前、創立25周年の当社社内報には「当社が循環して変わりないことは、誠実を旨として一致、協力し、会社の発展を図り、社会の福

祉を増益すべく飽くなき情熱と努力をしてきたことである。これこそ日東精神として誇るべき宝である。事業は永遠に榮えねばならない。これからも誠実、信頼、感謝の心をもって日東精神を堅持し、50年、100年の記念式を盛大に祝うことを期待している」とあります。これからもこの熱い想いをしっかりと受け継いでまいります。

連載⑮

あやべ ちょっと寄り道

教会？

いえ、今はレストラン

2015年1月号で当社本社のある綾部市出身の修道女、元聖心女子大学学長の吉川茂仁香さんを取り上げました。

作家の曾野綾子さんと元国連高等弁務官の緒方貞子さん、そして美智子皇后陛下の恩師で、日本のミッション教育の礎を築いた方です。記事の中で、その吉川さんゆかりの綾部教会が教区統合で閉鎖されると紹介したのですが、その後、閉鎖された教会が今年1月カフェレストランとしてオープン。祈りの場が、交流・安らぎの場に生まれ変わっています。



レストラン名は「GET ME TO THE CHURCH」
写真提供：「KYOTO SIDE」